

天遊

大阪教育大学 広報誌

VOL.13 2010. SPRING

教員正規採用人教全国No.1

明日へ向かって大きく伸ばそう

人にまっすぐ。大阪教育大学

特集
2

巣立つ卒業生

08

YOU CAN DO IT!! 君ならできる!!

岡部真理恵さん(堺市立中学校教員) / 秋間良介さん(特別支援学校教員)

池上泰喜さん(堺市立小学校教員) / 南 潤美さん(大阪市立小学校教員)

粕谷匡宏さん(都市銀行) / 澤田亜希さん(大手衣料品販売会社)

特集
1

座談会

02

「教育実践力と、専門性、教養に裏づけられた
総合力を有した教員養成」

地域で活躍する教員の卵たち 07

地域になくはない「第3のおうち」

コミュニティスペースPECO

中期目標・中期計画 11

第1期中期目標期間を振り返って

授業紹介 12

第二部(夜間)

教育心理学特論Ⅱ・牧 郁子准教授

教員養成課程

特別支援教育講座・金森裕治准教授

トピック 14

- 3年間の英語向上プログラムがスタート
- 柏原キャンパスに全面人工芝グラウンド完成
- ウェブページが新しくなります!!
- 「大教プレス」学生スタッフを募集します。
- 平成22年度公開講座開講情報





開学60周年に寄せて その3

教育実践力と、専門性、教養に裏づけられた 総合力を有した教員養成

出席者

- 森 実氏 (教職教育研究開発センター長)
- 久田敏彦氏 (教育学部学校教育講座教授)
- 木原俊行氏 (教育学部第二部実践学校教育講座教授)
- 安部文司氏 (教養学科欧米言語文化講座教授)
- 野田文字氏 (副学長、司会)

「即戦力」の中身を問う

卒業生教育長の提言を受けて

野田 昨年11月、開学60周年のシンポジウムで、卒業生教育長らによるリレー提言がありました。そのなかで、大阪教育大学に対していろいろな期待や要望をいただきました。大学としては、これを真摯に受け止めなくてはならないと思います。まず先生方がどのように感じられたのか、お聞かせいただけますか。

森 印象的だったのは、「即戦力」という言葉が異口同音に語られていたことです。そんな折、わたしがかわっている「社会人のための教員養成(学び直し)セミナー」のフォーラムが昨年12月19日にあり、その「即戦力」の問題がクローズアップされました。そのなかで「即戦力」ってなに？というような、即戦力の中身を明らかにしようという議論がなされました。

教員として成長していくには養成・採用・研修などさまざまなステージがありますが、どのパートを大学が担い、どのパートを教育委員会が「〇〇教師塾」などとして担い、どのパートを学校現場が教員の研修として担うのか。そのあたりの相互関係を整理する必要があると感じました。

そのセミナーの打ち合わせでは、「即戦力とは何か」という話題で盛り上がりました。教育委員会の言うには、セミナーを運営して困るのは、参加者のなかに、明日にでも使うことのできる教材や技術などを求める傾向があるということです。それよりはもっと自分自身を振り返る力、子どもたちのことをきちんと受け止める力のほうが必要ではないかという意見が出ていました。

大学との共同研究や
総合力、体験重視など

野田 教育改革の議論で外部から求められていることは、「即戦力」という言葉に凝縮されます。しかし、その中身はそれぞれ違うということです。
久田 即戦力も含めて、教育長の提言を4つくらいに整理することができると思います。
一つは、市町村が抱えている教育課題について、



野田副学長



森教授

大阪教育大学との共同研究を求めているということとです。本学の先生方は、個人としては現場の各学校と連携しながら、いろいろ共同研究をしています。特に教員養成課程の先生方は多いようです。ただ、大学として組織的にシステムを立ち上げて共同研究をするということになると、十分ではないのではないかとという指摘だと受け止めています。第2期の中期目標では、附属学校も含めて各教育委員会と連携して組織的な共同研究を推進することがうたわれていますが、その意味ではシステムとして立ち上げられることとなります。ただ、「発信する大教大」というスタンスからすると、発信するのは大学ですから、大学が主体性をもってリードしていかなくてはなりません。大学が教育委員会の下請け機関のようなものになるなら、やめたほうがいいのではないかと思っています。
二つ目は、総合的な力を身に付けさせてほしいという要望です。教育実践というのとはもともと、

総合的なものです。子どもをどう理解するのか、子どもの発達をどのように捉えるのか、教科内容研究をどの程度深めているのか、教科の背景となる科学の方法論をどの程度身に付けているのかなどが問われます。また、生活指導では自治活動や文化活動の指導に堪能でなければなりません。問われます。この意味で、総合的な力が求められています。

三つ目は、即戦力です。学校現場から見れば、即戦力がほしいというのは当然だと思います。しかし、即戦力の中身ですが、技術主義やスキル重視に陥ってしまつては危険だという気がします。教員養成の捉え方は、以前からリベラルアーツ重視があつたし、逆に教育技能者を養成していくという捉え方もありました。それが激しく対立していたときもありました。その対立に戻るというのではなく、大学として、両者を止揚していくことができるような教員養成観をもつ必要があるのではないかと思います。

四つ目に共通していたのは、体験重視です。体験や経験をどのように捉えるかは大きなテーマを突きつけられたといえるでしょう。すべての認識が経験から出てくるというわけではありません。しかし、「認識は経験と共にある」という有名な言葉があります。これは、教員養成にとつての理論と実践の関係と捉えることができるでしょう。最近では、理論と実践の往還という課題が提起されていますが、これにどう応えるかも考えなければならぬでしょう。

大学と学校現場による

“内から発信する共同研究”

木原 教育長のそれぞれの発言は、ある意味、正鵠を射ているとは思いますが。しかし、教員に求められる能力のすべてを4年間、5年間の教員養成期間にできるはずありません。

一方で、学校現場には戦力になるような人ばかりいるのかというと、必ずしもそうではないとも思うのです。ですから、初任だからダメなのだという考え方を一旦取り去っていただきたいと思います。そのうえで、例えば、イギリスやアメリカで行われている、教員の力量のスタンダードや指標、その全体的な枠組みのなかで、この先生は何ができて何ができていないのかを、初任にもベテランの教員にも当てはめて考える必要があるのではないかと思います。

また、われわれ大学側も、現場へ送り出したら



久田教授

終わりというのではなく、そのあとのケアやバックアップが大切なのではないのでしょうか。例えば、わたしの経験ですが、昨年度教員として送り出した卒業生が夏に研究室に帰ってきてくれて、プチ実践報告会のようなことをやってくれました。同じ大阪府内の小学校でも、取り組みが違っており、卒業生同士でも、自分が身を置いている学校とは違う世界があることを理解して、悩んでいたことが少し救われたとか、逆に自分ができていないことなのに、同じ初任のあの人はできていると刺激を受けたりしたようです。卒業して1年目の教員が大学に戻ってきて経験を反芻するような機会を大学側が組織的・意図的・計画的にプログラムすると、責任を互いに押し付けあっている状態よりよいのではないかと思います。卒業生に対するケアを大学として、一つの枠組みのなかに取り込まないといけないと思います。

同時に、そうした場面に卒業直前の学生にも関わってもらい、質問や意見を出させたりすると、なお教職への憧れが増幅されたり、また自分もついていた教員のイメージが拡張されたりすることもあります。ですから、そうした取り組みを上手にプログラム化すると、在学生の学びの舞台にも位置づき、両者の学びが共鳴する可能性もあると思います。卒業生教育長さんが言うような、大学側はこうしてください、教育委員会はこうしますという、在学中と卒業後の学校現場をきつばり分けてしまうことは必ずしも望ましいとは思いません。なお、このような営みは、久田先生がおっしゃった“内から発信す



安部教授

る共同研究”の試みの一つになると思われます。

野田 木原先生その取り組みはゼミとして行われたのですか。二部なので夜間に実施されているのですか。

木原 夏休みの日曜日です。大阪市内や府内に勤務する先生だけでしたらやりやすいのですが、他府県に赴任している卒業生が帰っても、参加しやすい形にするには、どうしても夏休みのしかも休日ということになります。

森 小総（小学校教員養成課程総合認識系）の学生も、自分たちで夏休みに同じような取り組みを行っています。名古屋や横浜から参加している卒業生もいました。

豊かな教養を身に付けた
人材育成があつてこそ

野田 卒業後も集まろうという学生のニーズや熱

意が生まれてくると、面白い取り組みができますね。安部先生はいかがですか。

安部 学校の先生は教員である前に豊かな教養と市民としての常識を身につけた社会人であらねばならないはずです。逆に言えば、市民としての常識と豊かな教養をもった社会人であって初めて、よき教師となることができると思います。

シンポジウムでの卒業生教育長のお話を聞いていて、みなさん師範学校時代の出身の人ではないかと思うほどでした。教員養成が、戦前の師範学校から戦後の大学へ移行したのはなぜなのか、どういう意味があったのかを改めて問い直してみることがあります。

言うまでもなく、大阪教育大学はまず大学です。大学は、専門知識だけでなく、豊かな教養を身に付け、人格を陶冶するところです。いろいろ要望はあったとしても、大学は大学としての役割をまづ果たさなくてはなりません。それははずしてはいけません。

即戦力を学校現場が求める気持ちは分かりますが、大阪教育大学があまりに忠実に応えようとして、視野の狭い、社会性に欠けた人材の育成に向かうのではないかとという危惧をもっています。学校の先生は世間知らずとよく言われます。それには、いくつか理由があるでしょうけれども、大学が学校の世界しか分らない学生を教師として育てている部分もあるのではないかと思います。

わたしは、実際に即戦力が要請されるのに応えようとしたりした時に、現実には教養基礎科目や共通基礎科

目にし寄せがくるのではないかと危惧を覚えられます。単位数で見ると、すでに、教養学科と教員養成課程とでは、共通基礎科目の語学が12単位と8単位となっており、教員養成課程は少ない。教員養成課程では、第二外国語をまったく学ばずに卒業することができません。英語以外の語学を、実利目的ではなく学ぶ機会は大学しかないのに、学ばなくてもすむというのはいかかなものかなと思います。

何か教職にかかわる科目が増えると、教養基礎科目がその分減らされるというのは、教養軽視とみられ、そのことが学生に伝わるのではないのでしょうか。わたしが担当する教養基礎科目では難しい授業をやっているつもりはないのですが、最後の授業アンケートで、「難しすぎる。パンキョー（「一般教養」の意味）のくせに」という記述があったことがあります。それを読んで、非常に情けない気持ちになりました。「パンキョーのくせに」という言い方からして、教養基礎科目を見下して



木原教授

いるとしか思えない。そのくせ、難しすぎると文句を言う。「君はそれでも大学生か」とアンケートを書いた学生に言いたいぐらいです。

もう1つ、お話ししておきたいことがあります。教養学科における教員養成については、教養学科では開放制の下で、中学、高校の教員免許を取ることができます。開放制であることを逆に強みに生かせないかなと思うのです。というのも教員免許を取らなくても卒業できるのですから、逆に教師になれない、なつてはいけない学生には教員免許を出さないというスタンスがあつてもいいのではないのでしょうか。

わたしのところには、中高の英語の教員免許を取得しようとする学生が来ますが、教育実習に行った学校現場の指導教員に、「あの英語力では困ります」と言われることがあります。もちろん、そんな学生ばかりではなくて、なかには「卒業したら同僚としてぜひ一緒に仕事をしたい」と褒められた学生もいますが、話を聞いていて穴があつたら入りたい、なかつたら掘つても入りたくないような気持ちになることがあります。

今は、そういう学生でも、必要単位を取り、教育実習に行けば、教員免許を取って卒業できるわけです。しかし、教養学科の場合、教員免許を取らなくても卒業できるので、本当に教師になる意欲があつて実力もある学生だけを教育実習に出す、という姿勢が教養学科としてあつてもいいのかなと思います。

大学で学ぶとは何か追究を 学生へのメッセージ

野田 ありがとうございます。最後に、学生に対するメッセージを一言お願いします。

森 わたし自身の経験からですが、自主活動をしてほしいと思います。いろいろなところへ出かけるのもよし、自分たちで取り組むのもよし。もう一つは本を読んでほしいと思います。本を読んで



記念シンポジウム

互いに論をたたかわせることをやってほしいと思います。

安部 本を読んでほしいことは同感です。わたしの立場から言いますと、もうすぐ小学校で英語活動が本格的に導入されますが、本学学生の英語力が平均的には非常に低く、教師として英語を教えるには心許ない学生が多くなります。また、社会に出てみないと実感できない面もありますが、英語があるレベルに達しているかどうかで、ぜひぶん活躍できる世界が違ってきます。センター試験で我が人生における英語の勉強は終わったはず、と思わず、しっかり勉強してほしいですね。

木原 まず、学生の時にも教員になってからでも学び続けることのできる存在になってほしいです。学生だったら、授業以外にもいろんなことがあったり、教員になったら保護者のクレームがあったりして、いろいろしんどいことはあるし、やれることに制約はあるとは思いますが、少なくとも人を教える立場の人は学ぶということを大事にしてほしいと思います。その学びの対象が、教員の世界でいえば授業が中心なので、授業研究というものの価値を重んじるということになるでしょう。その精神を守っていただきたいということです。

それから、いろいろな授業や教師のあり方について少し視野を広げてほしいと思います。さらに言えば、その方法論の一つとして、卒業してから大学に戻っていただいて、インフォーマルに学んだり、本学の実践学校教育講座で学んだりして

いただきたいと思います。そうすれば、なにか得るものを皆様に提供できる自信があります。

久田 わたしは、大学に対しても話しておきたいと思います。教師の専門性とは何か、その中身をどのようにカリキュラムとして追究できるのかということは、大学としてのこれからの課題になってきます。その際に、教員の力量のスタンダードを、教育研究の自由を保障しながら、その位置づけと内容にかかわって大学として明らかにしていくかという思いがあります。

学生に対してということでは、大学で学ぶとは何か、青年期にとつての学びとは何なのか、これはわたしたち教員も考えていなくてはなりません。学生自身ももう少し考えていく必要があるのではないのでしょうか。教師になる、ならないにかかわらず、「探究」していくことが必要だと思えます。そのなかで、教師になろうとする人は、教育を「探究」していけるような「知性」をもってほしいと思います。

野田 教育現場にはいろいろな子どもがいて、いろいろな親がいますので、先生もいろいろな人がいていいと思うのです。一つのパターン化された教師のモデルを提示して、型にはめていくことは危険なことだと思います。学生もいろいろな人がいますので、それぞれの個性を生かした先生になつていただきたいのです。自分のもっているものをしっかり振り返って、それをよい方向へ伸ばす自己教育力をつけてほしいと思います。本日はありがとうございました。

地域になくってはならない

「第3のおうち」

その2

コミュニティスペース
PECCO

「オガタ通り商店会、新春もちつき大会！ よいしょ！ よいしょ！」。新春の商店街に若者の晴れやかな掛け声が響きわたりました。年配の商店主に交じって、大学生が力強く杵(きね)を石臼(うす)に振り下ろします。「腰が入ってへんなあ」「もうバテてるなあ」。商店会会員が目細めながら声をかけます。

今年1月11日(成人の日)、柏原市清州にあるオガタ通り商店会の西寄り、長瀬川と交差する清州橋の上で、「新春もちつき大会」が開かれました。地元市民が振る舞いを楽しみにしている恒例の行事には、毎年コミュニティスペースPECCOの学生、約10人が参加しています。

「PECCOが商店会にできてから4年目になりますが、学生さんのおかげで商店会にも徐々に活気が出てきました」と商店会の井村則夫会長(井村電気商会)は語っています。

昔ながらの商店街は、どこもシャッター通りとなっており、柏原市の中心部にあるオガタ通り商店会も例外ではありません。「PECCOの学生さんとは活動について定期的に情報交換をしています。商店会内のスーパリーのチラシ裏にPECCOの開室日やイベント情報などを載せ、PECCOのブログや商店会のホームページには商店会の行事を載せ合うなど、日常的な連携も深まっています」

コミュニティスペースPECCOは、「地域の居

場所」となるように、大阪教育大学、畿央大学の学生が中心になって運営しています。

「2006年6月、オガタ通り商店会から『商店会事務所として使っている空き店舗を利用しないか』との提案を受け、『地域の居場所』『コミュニティスペースPECCOをオープンしました。現在では、常時15人ほどの子どもたちが部屋を訪れるようになっていきます。PECCOに地域の人が集い、つながりを確かめられるような事業を展開していくことが、わたしたちの目標です」とPECCOのパンフレットには書かれています。コミュニティスペースPECCOは地域の「第3のおうち」として、団らんのあるスペースとなるよう活動をしています。



毎週月・水・土曜日が通常の開室日で、子どもが遊んだり、勉強や読書をし、大人の方は大学生とおしゃべりをしたり、大人と子どもの交流もあり、コミュニティスペースPECCOは常に活気に満ちています。季節にちなんだ行事もさかんで、年3回の遠足、キャンプ、月1回の商工会主催とくどく市、商店会協力イベント(10月)、通年で行っている子ども向け食育イベントや大人向けお菓子作り教室、クリスマスパーティー(12月)、バレンタインイベント(2月)など様々な事業を展開しています。イベントの企画、準備、広報、当日の運営とすべてを大学生が担っています。

PECCOの大学生の多くが教師の卵たちです。様々な活動を通じて大人や子どもとふれあうことで、教職に就いた際に、「地域と連携した」授業や学級運営ができる力を、4年間の在籍中に身に付けています。「子どもが好きなこともあります。この活動を通じて、地域に住む子どもたちの育ちを見守ることができるのが嬉しいですね」(古井達也君 小学校教員養成課程数理・生活系理科専攻3回生)

大阪教育大学の教育系サークルの事業としてスタートしたPECCO。現在は大学から独立し、商店会の一つの組織として活動しています。地域から支持され、地域に根づき、地域になくってはならない「第3のおうち」になっていきつつあります。

(広報室)

二人の恩師との出会い

05
10
15
20
25

社会人となる皆さんにエールを送ります。
このコーナーでは、期待と不安が入り交じる新天地への抱負や、
先輩へのメッセージなどを語っていただきました。(広報室)

小学校教員養成課程
芸術・体育系保健体育専攻体育コース4回生
おかへ まりえ
岡部 真理恵さん 22歳
堺市立中学校教員(保健体育科)採用予定

―教師をめざしたきっかけは？

岡部 小学校6年生のときの担任の先生の影響です。クラスにいじめられていた男の子がいました。教室の窓から飛び降りようとしたのです。その先生は体を張って本気で止めました。「こんなことで人生を棒に振るなんて、もったいないじゃないか」と。先生は、この事件をきっかけに、クラスで(いじめは)なげいけなにかについて真剣なクラス討論を行いました。その男の子は現在、大学生になっており、彼の人生が広がっています。わたしも子どもの未来を広げる仕事に就きたいと思いました。

もう一つ出会いがありました。高校時代の陸上部顧問です。陸上(中距離800メートル走)は中学からやっていたのですが、中3から高校の最初の頃、記録が伸びなくなると壁にぶつかって悩んでいた。高校に入り、3年間陸上を続けることができたのは、顧問の先生の指導のお陰でした。自分の可能性はここまでと閉ざしてしまわないように指導されました。「わたしはまだできるんだ」と自信がよみがえり、実際に記録も伸びました。その先生のスタイルは「〇〇をしろ！」などの命令調ではありませんでした。「やりたければやりなさい」と、生徒のやる気を伸ばす、巧みな指導でした。わたしも、子どもの未来を広げられるような教員になりたいと思います。

―大学時代の4年間はいかがでした？

岡部 親からの援助なしのバイト生活という厳しい状況だったので、**「陸上部でがんばりたい」「先生になりたい」という思いをずっと持ち続けることができました。教職をめざして一緒に歩む仲間がいたことが心強かったです。**

―先輩へのメッセージを。

岡部 大学時代は自由なので、自分で何かをしようと決めないといけないと思います。大学の4年間で一生懸命考えて、悔いのない人生を選んでほしいです。



左から2人目が岡部さん(今年1月、石垣島マラソンに出場)

君ならできる!!

大阪教育大学では約千二百人の学生が巣立っていきます。

30
35
40
45
50

仲間の大切さを伝えたい

障害児教育教員養成課程4回生
あきま りんご
秋間 良介さん 22歳
特別支援学校教員に採用予定

―教師をめざしたきっかけは？

秋間 人に影響を与える仕事に魅力を感じていました。教職への憧れが強まり、小学校教員になりたいと入学しました。障害児を取り巻く教育環境や現状の課題を学ぶうちに、特別支援学校(養護教育諸学校)でも働きたいと思うようになりました。小学校からやってきたサッカーを大学でも続けたいという希望もあり、大阪教育大学を選びました。

―大学時代の4年間はいかがでした？

秋間 聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会に入って、学園祭での出し物の企画などの運営に取り組みました。その中で、いろいろな立場の人と出会い、交流し、人としての成長をさせていただいたように思います。小さい頃からずっと運動系の部活動をしていたので、文化系のサークルは学ぶことが多かったです。

―教職への抱負は？

秋間 ぼく自身、友達に恵まれたので、子どもたちには仲間の大切さを伝えたいと思います。そして、学級担任として、子どもたちの育ちを支えていく教師になりたいと思っています。

―先輩へのメッセージを。

秋間 大学の4年間に自分というものに気づいてほしい。大学には、他府県から多くの学生が来ていますので、いろいろな価値観をもっていきます。同じ教職をめざしても一人一人違います。いろいろな人と話をして視野を広げてほしいですね。ぼく自身、ニュージブラント海へ海外旅行に行って、外国の友人をもつことができました。アクティブに行動することが自分自身を成長させることにもつながると思います。



MESSAGE FROM

子どもを支える教師に

小学校教員養成5年課程5回生
池上 泰喜さん 24歳
堺市立小学校教員に採用予定

天王寺キャンパス



―教師をめざしたきっかけは？

池上 小学校5・6年生の時に受け持っていた担任の先生に憧れたからです。学級運営や学習集団づくりが巧みで、ぼくも勉強に遊びによく面倒をみていただきました。「こんな大人になりたい」と純粹に思いました。今も年賀状のやりとりをして、励ましていただいています。カウンセリングの仕事にも興味がありましたが、元々子どもが好きで、最終的には教職に就くことができ、良かったと思っています。

―5年間の学生生活はいかがでした？

池上 天王寺キャンパスは、小規模な分、アットホームな雰囲気です。友人との関係も密で自分にはあっていました。ぼく自身、行く先々で仲間や先生に支えられてここまでできました。バイトも勉強になりましたが、社会経験豊富な編入生との交流も貴重でした。学童保育や学校ボランティアなど学校現場で子どもたちと触れ合う機会を多くもつことができました。

―学校現場への不安や期待はありますか？

池上 担任としてその子の1年間を預かる教職には、その子の人生を左右するという仕事だという責任の重さを感じます。恩師のように、勉強だけでなく、しんどいときにも支えてあげられる教師になりたいです。

―先輩へのメッセージを。

池上 学生時代にいろいろな経験をするのが重要です。遊びにしろ勉強にしろ、全力で取り組んでほしいです。決して無駄にはなりません。

YOU CAN DO IT !!

春は出会いと別れの季節。

きらきらした目に接して

小学校教員養成5年課程(3年次編入)5回生
南潤美さん 29歳
大阪市立小学校教員に採用予定

天王寺キャンパス



―教師をめざしたきっかけは？

南 初めは、教職に反発を感じていました。父が私学の中学校教員なので、周りから教師になったらと言われるのがいやだったからです。それで、大学の商学部に進み、卒業後、関西国際空港で接客の仕事をしていました。

転機は、父の病気でした。父が、手術の麻酔で眠っている間、教員として生徒に授業をする夢を見たとき、目覚めたあとに嬉しそうに話すのです。父は、教壇から離れて数年が経っていたのですが、そんなに教師っていいのかと。元々、人とかかわる仕事をしたかったので、一念発起しました。仕事を続けながら学ぶことのできる、第二部(夜間)に入学しました。

―学生生活はいかがでした？

南 3回生からインターンシップで学校現場に足を踏み入れることができました。そこで、どの子も勉強がしたい、分かんないと思っていると実感し、そういう気持ちを大切に、勉強だけでなくいろいろな面で伸ばしてあげることのできる先生になりたいと思っています。保護者対応の難しさがいわれますが、接客の仕事で得たクレーム対応の経験が、いかされるのではないかと考えています。

―先輩へのメッセージを。

南 学校現場に行くと、子どもたちのきらきらした目に触れ、生き生きした表情に接したら、教師になりたいと思うに違いありません。なるべく早く現場を体験してほしいと思います。

一生懸命熱くなれ

教養学科
人間科学専攻発達人間福祉学コース4年生
粕谷 匡宏さん 22歳
都市銀行に内定



—大阪教育大学の教養学科に入学したきっかけは？

粕谷 一つは、人に関する視野を広げようと思っていて、教養学科に人間科学があることを知り、入学しました。二つ目は、小学校からサッカーをしていましたので、サッカーの強い部活があるということに魅力を感じました。

—サッカー部でも多くを学んだそうですね。

粕谷 はい。サッカー部の監督が文武両道をしつかりせよとおっしゃっているので、好きなサッカーだけでなく、勉強も頑張りました。また、自主性を大事にしており、練習メニューも自分たちで考えました。3、4年生のときは、みんなと私立の強豪に打ち勝つためにはどうしたらいいのかと考えた末、「チームワーク」をモットーにしました。お陰で、1部リーグに昇格したときは嬉しかったです。最後に負けて、2部リーグに落ちてしまいました。サッカーはぼくの大学生活にとって大きいものであります。

—銀行に内定したそうですね。

粕谷 サッカーは、ただボールを蹴る選手だけのものではなく、マネージャーや運営の人、監督やコーチなど、支える人がいて成り立つのです。社会に出ても、感謝の気持ちを忘れないようにすれば、しんどくてもがんばれるのではないかと思います。

—人々から経済へと新たな挑戦ですが、抱負を。

粕谷 福祉分野に関心があり、銀行の立場から地域福祉やコミュニティビジネスへの支援をしていきたいと思っています。

—先輩へメッセージを。

粕谷 大学は自由な時間がいっぱいあります。何でもいいですから一生懸命熱くなることが出来るものに取り組んでほしいのです。身に付くものが必ずあるはずですよ。

YOU CAN DO IT!! 君ならできる!!

やりたいことに チャレンジを

教養学科
文化研究専攻欧米言語文化(フランス語圏)コース4年生
澤田 さわた
澤田 亜希さん 22歳
大手衣料品販売会社に内定



—大阪教育大学を選んだきっかけは？

澤田 公立の大学で自宅から通い、語学ができる大学を希望していました。コースの学生は5人で仲が良く家族的で楽しかったです。大阪教育大学は優しい人が多いですね。とても温かい大学だと思います。

—4年間の学生生活はサークル活動も参加したのですか？

澤田 ソフトボール部を一生懸命やりました。ママさんソフトボール大会にもエントリーしました。

—就職氷河期で就職活動は大変だったと思いますが、民間企業に採用が決まったそうですね。

澤田 接客の仕事がしたかったので、旅行会社、百貨店などを受けました。その結果、大手衣料品販売会社に決まりました。周りの人が自分のことのように喜んでくれましたので、嬉しかったです。

—社会人としての夢は。

澤田 まずは国内各支店の現場を回り、いずれは海外に目を向けたいです。パリにも支店がありますから、店長をやってみたいですね。従業員みんなの意見を聞いて、いい店を作りたい。人を育てる仕事もしたいです。

—先輩へメッセージを。

澤田 大学には春と夏の2回、約2か月間の休みがあります。サークルやバイトもいますが、お金を貯めて、海外旅行で人間の幅を広げるのもいいのではないのでしょうか。4年間はあつという間です。後悔しないよう、やりたいことがあればやってみるべきですね。チャレンジです。大教大は遠いけれど、人が温かいです。行く価値のある大学です。

第一期 中期目標期間を 振り返って

大阪教育大学長 長尾 彰夫



大阪教育大学では、第1期（平成16年度～平成21年度）中期目標・中期計画を着実に実施しながら、教員養成の中心的大学として新たな大学づくりへの取り組みを推進してまいりました。第1期中期目標・中期計画中に達成した数多い事項の中から主なトピックスを紹介します。

●教育研究組織の見直し

学部の見直し

今日的課題に対応したカリキュラムとするため、また、より充実した大学教育をめざすため教員養成課程及び教養学科を改組（学部改組）しました。この改組は、学生募集区分の大括り化も兼ねており、受験生からの要望にも応えたものとなっています。

大学院の見直し

高度な力量を身に付けるための大学院教育をめざしたカリキュラム改正や教育体制を整備も含め大学院の教育研究組織を見直しました。

●学校安全に関する取り組み

大学の防犯防災体制及び附属学校の緊急時における応援体制のさらなる整備等を図るとともに、定期的な実態調査を実施し、点検、見直し、改善を継続して行っています。

また、国内外の取り組み事例の調査・研究やシンポジウムなどの活動を通じて、安全な学校づくりに向けて情報発信を続けています。

●施設の整備状況等

「学生のための大学づくり」をコンセプトに、良好な学習環境の維持・改善を計画的に推進しています。一例として、講義室の空調設備の整備、

アメニティスペースの新設、学内緑化対策、エレベーターやスロープの整備等アクセシビリティ改善事業、サッカー・ラグビー場の全面人工芝化等が挙げられます。

また、天王寺キャンパス西館を全面改修し、学外者に対する学習環境の改善にも取り組みました。環境にも考慮し、柏原キャンパスに大規模太陽光発電を設置し、年間約100トンのCO₂排出量を削減しました。

●情報公開

平成21年、開学60周年を機に『大阪の教育課題に込めて 発信する大教大』をスローガンに、ステークホルダー及び国民の皆様への説明責任の徹底を努めつつ、教育研究成果を積極的に公開することとしました。その一環として、教育関係者を中心に5回シリーズで学校教育の今日的課題をテーマにしたシンポジウムを開催し、大変好評をいただきました。また、本学ウェブページの見直しを進めており、誰にでも見やすくなりやすく等をコンセプトに平成22年4月に全面リニューアルします。

第2期（平成22年度～平成27年度）中期目標・中期計画に向けては、大阪教育大学のこれまでの伝統を守りつつ、第1期中期目標・中期計画の実績を踏まえ、第2期中期目標・中期計画を策定いたしました。特に、教員の養成・研修に一層の力を置いた運営体制とともに、学生の視点に立った教育研究指導に学習・生活全般の支援体制の強化をめざしています。詳しくは、本学ウェブページ（4月掲載予定）をご覧ください。

「○○を科学する」 テーマに展開 教育心理学特論Ⅱ



教育学部第二部
実践学校教育講座准教授
牧 郁子



わたしが担当している「教育心理学特論Ⅱ」の授業は10人余りのクラスです。週1回90分の授業時間です。少人数であることのメリットを生かした双方向の授業にしようと工夫を加えています。

教育現場で課題となっているテーマを学生に投げかけ、学生がグループでディスカッションします。「○○を科学する」というタイトルで示し、先行研究の知見や事例をディスカッション材料としてパワーポイントやレジュメで提示し、授業を進めます。一方通行の講義だけではなく、学生同士あるいは教員と学生間で議論を双方向に繰り広げるのです。

いじめや学級崩壊、不登校、授業妨害、万引きなどの問題行動、非行について、学生自身が実体験を振り返り、考えを出し合ってきます。グループでまとめた議論の結果を互いに発表し、教師からの質問、学生から意見がながん出し合います。教師も議論に加わり、中身を深めていきます。議論が深まってくると面白い発見がどんどん出てきます。

例えば、カリキュラムの前半に取り上げた「学級崩壊を科学する」というテーマの授業を紹介します。学級崩壊にいろいろな切り口からアプローチしたところ、必ずしも教員の力不足だけが要因ではないことが分かってきました。ベテラン教員なのに学級崩壊が起こるのはなぜか。

学生が、自身の小中高校時代に荒れたクラスの経験から、「叱りすぎる」「余裕がない」「自分の考えを変えない」「授業が単調で工夫がない」などの意見が出されました。そのうえで、子どもたちの荒れは「授業がわからない」ことからくることが多いことが導き出され、「教師はやはり授業が大事」との共通認識が確認されました。

また、初任の教員がつぶれるケースを議論してい

くと、「周りの同僚に助けを求めることできない」という状況が浮かび上がってきます。そして、教員同士では、若い先生は周りに甘えることのできる環境が必要であること、そのためには、ベテランといわれる先生が、進んで失敗談を明かし、時には愚痴をこぼすことも大切ではないかということです。何でも話し合える職場の雰囲気です。

こういう授業には、社会経験豊かな学生やゲストティーチャーの参加が、議論を盛り上げ、深めるきっかけにもなりました。

カリキュラムの後半は、非行や暴力をテーマに、グループワークで面白い議論が繰り広げられました。

例えば、「なぜ問題行動をやめたのか」「しなかったのか」のテーマで、実体験を踏まえたディスカッションを行ったところ、ある学生は「殴り合いで親父に勝つようになったら、暴れるのはもうやめようと思った」「後から弟が中学校に入学してくるので家族に迷惑をかけると思ったから」「悪いことをしても女の子にもてないということが分かったから」「近所の大人が中学生に親切なので悪さをしようとはならなかった」などと語り、心理学研究にとっても面白い材料が出されました。

わたしの専門は、学校臨床心理学です。臨床心理士として、小中学校でスクールカウンセラーや教育相談員をしてきました。議論の過程で、当初思っていた印象とは違った面を見せる学生がたくさんおり、わたし自身も勉強になりました。また議論を通じて学生に教えられることが多く、教員も新たな発見ができる授業でもあります。学生たちには様々な議論を通して、一つの考えにとらわれず、多様な見方のできる教員になってほしいと思います。授業を進めています。

読み書き障害の子どもたちへの
アクセシブルな情報システム

「マルチメディア デイジー」の研究



教育学部教員養成課程
特別支援教育講座
准教授 金森 裕治



「ディスプレイシア」(読み書きの習得のみに困難を示す障害)と呼ばれる子どもたちがいます。特別な支援を必要とする子どもたちで、文部科学省によると、全就学児童生徒の約2・5%、クラスに1人は在籍しているとされています。一人一人のニーズに合った学習・読書方法をどのように工夫したらいいのか、教育現場の課題になっています。

それを支援するツールの一つが「マルチメディアデイジー(DAISY)図書」というデジタル教材です。その指導方法を研究しています。

わたしの専門は視覚障害教育。現在、ゼミの学生が研究テーマで、障害のある子どもへの効果的な指導のあり方について研究を深めています。

DAISYは、視覚障害者用に開発された音声支援システムで、現在は、無償で提供される「AMIS(アミ)」などの再生ソフトにより、画像やテキストも含めて、教科書や一般図書を丸ごとパソコンで再生することができます。「マルチメディアデイジー図書」を再生すると、文字を音声で読み上げるので、それを聞きながら、文字や画像を見ることが出来ます。カラオケ画面のように音声で読み上げられる部分の文字がハイライトされていくので、文字を目で追うことが困難な人を助けます。

また、人の手を借りずに自由に読むことができません。もともと読みたいという意欲が培われます。ワンスローを、白黒反転、ハイライトを短く、ルビを振る、ゆっくり読む、ゴシック文字にするなど、障害の状況に応じて柔軟に加工できます。視覚障害者はもちろん、LD・ADHD・自閉症などの発達障害、知的障害者や精神障害者、肢体不自由者、また、

高齢者など、読みに困難を伴う人々を幅広く支援できます。

しかし、課題もあります。それは読み書き障害の子どもたちに広く使ってほしいのに、学校現場に知られていないことが残念です。

その理由は、まず客観的なデータとなる実践事例が少ないこと。大阪府内では現在、熊取町の小学校で大阪教育大学生が障害のある児童の支援に活用しています。また、大阪府立の支援学校高等学校でも授業に導入され、大東市の小学校、富田林市の小学校などでも、特別支援学級の担任、通級指導教室の担当教員による活用が報告されていますが、現場での普及はまだまだというのが現状です。早急に事例を集め、データベースを進めていきたいと考えています。

また、教科書のDAISY化が遅れていることも大きな課題です。主に小学校国語科、算数科が中心で、中学校は英語の一部しかDAISY化されていません。中でも、特別支援学級、特別支援学校におけるDAISY教材がほとんどないことから、絵の上手な学生や、教科書の音読に取り組んでいる学生などに協力を呼びかけ、教育的なニーズに応じた手作りDAISY教材の製作を行っています。

教科書のバリアフリー化のために避けて通れない著作権問題のクリアなど、取り組む課題はたくさんあります。定期的に研修会やマルチメディアデイジー図書製作講習会も開かれており、わたしが主宰する「大阪マルチメディアデイジー研究会」に問い合わせてください。

問い合わせは FAX 072(978) 3490へ。

教える「英語力」の育成をめざし

3年間の向上プログラムがスタート



片桐教授(左)と吉田教授(右)

「教える『英語力』向上プログラムの構築」。大阪教育大学は、平成21年度(23年度)文部科学省『大学教育・学生支援推進事業・大学教育推進プログラム』の採択を受け、新たな事業をスタートさせています。新しい学習指導要領で平成23年度から本格的に小学校での外国語活動が始まるのをにらんだ取り組みです。

本学での英語教育を、大学卒業者にふさわしい英語力を身に付けさせるものにするだけでなく、これからの学校現場での外国語活動(英語教育)に必要な能力の育成とその評価システムを確立し、教員希望者の英語能力(教える「英語力」)の向上を図るのがねらいです。

具体的には、授業内での対面講義による音声学の講義と発音指導(ATRCALL) (コンピュータ支援自立語学学習)などのICTを活用した授業外の補充学習を併用し、英語コミュニケーション能力や英語表現能力の向上をめざします。また、英語基礎力の達成評価として、ネイティブスピーカーが口頭英語力を評価する Versant (口頭英語能力測定試験) など外部テストを導入することで、客観性をもたせます。

さらに教員に求められる総合的・実践的な英語力の評価を多面的に行うため、附属学校でのサポート活動による評価(ループリック型など)を導入し、最後に、一定成績以上を取めたプログラム修了者に、学校教員としての英語力保証の認証「学校英語サポーター」を与えます。これらを実践しながら、総合的・体系的な英語力向上プログラムの開発・構築を行うものです。

この事業にかかわる実施委員会委員の吉田晴世教授と、外部資金戦略担当学長補佐の片桐昌直教授に聞きました。

吉田教授の話 「小学校で英語学習を指導的に担うコア的人材の育成と、大学全体の基礎英語力の向上の取り組みとをドッキングさせようというものです。そして、『教える』英語に5つの能力を設定しました。①教室英語

活用②児童とのコミュニケーション③ALTとのコミュニケーション④表現力⑤プレゼンテーションです。また、外部テストによる評価を重視しており、その一つである Versant を体験して、学生は「未知との遭遇」だというのです。電話を通じて自分がしゃべった英語力に対する評価が、即座にネイティブスピーカーから届くからです。評価結果はなかなかシビアですが」

片桐教授の話 「英語をテーマにした事業はいろいろな大学で取り組まれています。研究だけであるとか、現職教育にとどまっています。教員養成系大学としてのリソースを最大限活用し、『教える』という部分を特化したのが、文部科学省のGPとして評価されたようです。また、連携する教育委員会との協力のもと評価基準も作成されます。小学校現場で求められている英語教育という時宜を得たプログラムとしても支持されたようです」

期間中、本学では多彩な事業を計画しており、その一環として、小学校英語シンポジウム「これからの小学校英語活動」が、2月6日(土)、天王寺キャンパスミレニアムホールで開催されました(写真)。



シンポジウムの模様



島崎貴代教諭(附属平野小)によるワークショップ

近畿国公立大としては初

柏原キャンパスに 全面人工芝完成

大阪教育大学柏原キャンパスでは、多目的グラウンド（サッカー・ラグビー場）に、全面人工芝が完成しました。近畿地区の国公立大学としては初の全面人工芝となり、最新の人工芝素材と機能性の高い夜間照明設備が加えられ、関西でも屈指の体育施設として注目されています。

関西の国公立大学としては唯一、1部リーグで活躍した実績をもつ本学サッカー部や、伝統のあるラグビー部がこの人工芝グラウンドから大きく飛躍していくことが期待されます。

なお、2月9日（火）、人工芝のお披露目を兼ねて、学生を中心に完成記念式典が催され、始球式、サッカー部、ラグビー部員によるデモンストレーション等が行われました。



平面図

ウェブページが新しくなります!!

本学ウェブページは、「誰にでも見やすく、わかりやすく、アクセスしやすい、見る人の視点に立ったウェブページ」を基本コンセプトに運営し、これまで全国300大学中第2位、国立大学法人では第1位^{*}になるなど、学内外において高い評価を受けてきましたが、さらに魅力的なウェブページへと発展させるため平成22年4月ウェブページを全面リニューアルします。

※全国大学サイト・ユーザビリティ調査2005(日経BPコンサルティング)による。

リニューアルポイント

各メニューの構成を再考し、なお一層「アクセシビリティ・ユーザビリティ」を向上させます。携帯電話対応ページを大幅に増加し、携帯電話からのユーザーへの利便性を向上させます。新たに制定したニューロゴマーク、ロゴタイプ、大学イメージカラーを利用し、サイト全体の一体感を創出します。



「大教プレス」 学生スタッフを募集します。

企画課広報室では、学生の皆さんに参加していただく「大教プレス」の学生スタッフを募集します。学生生活における身近な情報を盛り込んだパンフレット等の制作や、本学ウェブページでの情報発信など、学生目線で大学をPRしていただきます。

こうした広報活動は、コミュニケーション力や文章力、段取りする力や、効率の良い仕事の進め方など、社会人としてのスキルを身につけることにつながります。

「大教プレス」に関する詳細は、広報室へお問い合わせください。



電話：072-978-3344 FAX：072-978-3225
メール：kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

平成22年度公開講座科目一覧

講座名	募集期間	実施時期	対象	定員	開講キャンパス
ムーブメント教育・療法基礎講座I ー特別支援教育を学ぶー	3/1~ 4/2	4/24~ 7/10	特別支援教育やムーブメント教育・ 療法を学びたい教員	25	天王寺
歴史講座 ー日本古代史上の人物とその問題点ー	3/1~ 4/2	5/1~ 6/12	教員や一般の方	30	天王寺
書道講座 一書(春)ー	3/8~ 4/9	5/6~ 7/8	書に興味のある方	10	天王寺
市民のためのパソコン教室 ーウィンドウズ入門ー	3/8~ 4/9	5/8、 5/15	パソコン操作に興味のある方 (ただしマウス操作と文字入力のできる方)	24	天王寺
美術実技講座 ー陶芸入門ー	3/8~ 4/9	5/8~ 1/22	一般の方	20	天王寺
美術実技講座 ー陶芸中級Aー	3/8~ 4/9	5/8~ 1/22	一般の方	20	天王寺
スポーツ実技講座 ー楽しいノルディック教室ー	3/15~ 4/16	5/9~ 6/5	ノルディックウォーキング愛好者 または興味のある方	25	柏原
中国語講座 ー初級Aー	3/15~ 4/16	5/10~ 7/26	教員や一般の方	15	天王寺
美術実技講座 ー陶芸中級Bー	3/15~ 4/16	5/11~ 1/25	一般の方	20	天王寺
タイ語基本講座	3/15~ 4/16	5/15~ 5/29	タイ語を初めて学習する方、基礎 をきちんとマスターしたい方	15	天王寺
コミュニケーション・表現力養成講座 ーコミュニケーション力、表現力を 高めよう!ー	3/15~ 4/16	5/15~ 6/5	教員の方	12	天王寺
公衆衛生活動のためのExcel 活用講座	3/23~ 4/16	5/15~ 6/26	養護教諭・保健師・栄養士他、実際 に健康教育などの公衆衛生活動に 従事している専門職の方	24	天王寺
スポーツ実技講座 ー楽しいジョギング教室ー	3/23~ 4/16	5/15~ 3/20	ジョギング愛好者または興味のある方	25	柏原
市民のための声楽講座 ー土曜日編ー	3/23~ 4/16	5/15 1/23	声楽に興味のある方	10	天王寺
市民のための声楽講座 ー日曜日編ー	3/23~ 4/16	5/16~ 1/23	声楽に興味のある方	10	天王寺
市民のためのパソコン教室 ーワード入門ー	3/29~ 4/23	5/22、 5/29	パソコン操作に興味のある方 (ただしマウス操作と文字入力のできる方 またはウィンドウズ入門を修了した方)	24	天王寺
美術実技講座 ー木のおもちゃをつくろう(1)ー	3/29~ 4/23	5/22~ 6/19	幼児から大人まで木のおもちゃ づくりに興味のある方 (幼児・小学生は保護者が同伴できる方)	10	柏原
美術実技講座 ー木のおもちゃをつくろう(2)ー	3/29~ 4/23	5/23~ 6/20	小学生から大人まで木のおもちゃ づくりに興味のある方 (小学生は保護者が同伴できる方)	10	柏原
市民のためのパソコン教室 ーエクセル入門ー	3/29~ 4/23	6/5、 6/12	パソコン操作に興味のある方 (ただしマウス操作と文字入力のできる方 またはウィンドウズ入門を修了した方)	24	天王寺
タイ語会話講座	4/5~ 5/7	6/5~ 7/10	「タイ語基本講座」または昨年の 「タイ語(発音と文法)」を受講した方	15	天王寺
タイ語文字講座	4/5~ 5/7	6/5~ 7/10	「タイ語基本講座」または昨年の 「タイ語(発音と文法)」を受講した方	15	天王寺

講座名	募集期間	実施時期	対象	定員	開講キャンパス
タイ語講読講座	4/5~ 5/7	6/5~ 7/10	タイ語をスムーズにローマ字表記・ 音読できる方、基礎的なタイ語の 知識をお持ちの方	15	天王寺
市民のためのパソコン教室 ーインターネット入門ー	4/12~ 5/21	6/19、 6/26	パソコン操作に興味のある方 (ただしマウス操作と文字入力のできる方 またはウィンドウズ入門を修了した方)	24	天王寺
ファミリーテーション・ボール・メソッド (FBM)の基礎と実践講座 ー障害児の自立活動に役立つ教育的アプローチー	5/10~ 6/4	7/3	教員・療育担当者の方	30	天王寺
書道講座 一篆書・基礎5ー	5/10~ 6/4	7/3、 7/4	一般の方	15	柏原
美術実技講座 ー彫刻制作に挑戦しようー	5/17~ 6/18	7/17~ 11月 中旬	彫刻制作に挑戦しようと思意の ある中高生から一般の方	10	柏原
美術実技講座 ー絵画を楽しむー	5/24~ 6/25	7/26~ 7/30	絵画に親しみ一般の方 (小・中・高校生も含む)	25	柏原
ベテラン教師に学ぶ ー図画工作の時間をより楽しくするコツ(2)ー	6/7~ 7/9	8/4	図工の時間を「より楽しみたい」 「より楽しみたい」とおもっている すべての先生	35	天王寺
英語の代名詞が何を指すかで お悩みの先生方に	6/7~ 7/9	8/5	英語教員の方	30	天王寺
電子工作講座 ーLEDを使用した癒しライトの製作ー 「ろうそく」のゆらぎを再現した	6/7~ 7/9	8/5、 8/6	小学校高学年から成人まで	10	天王寺
公衆衛生活動のためのSPSS 活用	6/14~ 7/16	8/7~ 10/2	養護教諭・保健師・栄養士他、実際 に健康教育などの公衆衛生活動に 従事している専門職の方	24	天王寺
小・中学校教員のための パソコン教室 ーエクセル活用入門ー	6/14~ 7/16	8/18~ 8/20	エクセル操作に不慣れな小・中学校 教員の方 (ただしマウス操作と文字入力のできる方)	24	天王寺
書道講座 ー書道に親しむ(臨書6)ー	6/28~ 7/23	8/24~ 9/28	一般の方	15	柏原
衣・食・住と色彩	6/28~ 7/23	8/25	教員の方 (教科・専門を問いません)	20	柏原
自然科学講座 ー地球は生きているー	7/20~ 8/20	9/11~ 10/23	教員や一般の方	30	天王寺
市民のためのパソコン教室 ーワード中級ー	8/9~ 9/3	10/2~ 10/30	パソコン操作に興味のある方 (ただしマウス操作と文字入力のできる方 またはウィンドウズ入門を修了した方)	24	天王寺
中国文化講座 ー中国茶テイスティング、お茶のある生活ー …五感で体験する中国茶の色・香・味・形とその歴史…	8/9~ 9/3	10/4~ 11/8	一般の方	15	天王寺
中国語講座 ー初級Bー	8/9~ 9/3	10/4~ 12/27	教員や一般の方	15	天王寺
書道講座 一書(秋)ー	8/30~ 9/17	10/7 12/16	書に興味のある方	10	天王寺
美術実技講座 ー木のおもちゃをつくろう(3)ー	9/6~ 9/24	10/24 11/21	幼児から大人まで木のおもちゃ づくりに興味のある方 (幼児・小学生は保護者が同伴できる方)	10	柏原
古典文化講座 ー能楽を楽しもうー …講義と体験、さらに鑑賞…	10/4~ 10/29	日程調整中 (11月末 ~12月中)	一般の方	35	天王寺

実施日等の詳細は、次のwebページ等で随時お知らせしますので、改めてご確認ください。
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~11c/>

『天遊』とは

『天遊』は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。

記念碑の揮毫は、水嶋 昌(山輝)本学名誉教授によるものです。



本誌に意見をお寄せください

広報室は、今後の誌面作りに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを綴じ込みのアンケートはがきによりお聞かせください。

■宛先 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
国立大学法人大阪教育大学企画課広報室
Tel:072-978-3344 Fax:072-978-3225
E-mail: kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

webページ <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>